（別紙1）　　平成　29　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0790400766		
法人名	株式会社　WILL　GOLD		
事業所名	グループホームあしび		
所在地	福島県いわき市内郷内町金坂21番地の2		
自己評価作成日	平成30年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ご入居者が穏やかに生活していくためのお手伝い」を合言葉にケアを提供しています。木造平屋建てのホームは、木のぬくもりを至るところに感じることができあたたかい雰囲気の中での生活を送りやすくなっています。平屋建てのため、これまで入居者が生活をおくってきた自宅などと同じ目線・環境で生活することができるため安心して生活していただくことができます。ケアを提供するスタッフの平均年齢も若く、明るいスタッフが多いため事業所全体の雰囲気が明るいのが自慢です。まだまだこれからのグループホームですが、入居者に楽しく、穏やかに生活していただくためさまざまな工夫をしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念を基に、利用者一人ひとりの思いを把握し、楽しく笑顔で暮らせるようその人にあった介護計画を作成し、職員間で共有しケアに取り組んでいる。
行政や看護協会から依頼され、研修会で事例発表し事業所としての取り組みや考えを話し、認知症やグループホームを理解して貰えるようにしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に全スタッフに法人理念及び事業所理念を解説している。	開所時に職員が利用者にどんな思いでいるかを話し合い、理念を作成している。職員は理念を理解・共有し、利用者の話を良く聴き思いを把握し、穏やかに過ごして貰えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材買い物の際に、近所のスーパーへ出向き買い物客と会話が発生したりしている。夏には近くの神社の祭りにスタッフと入居者が参加させていただいた。近くの小学校の学習発表会予行練習を見学させていただくこともあった。	地域の小学生がフラダンスを披露してくれたり、家族の方が編み物教室を開いてくれるなど、ボランティアを受け入れている。地域の行事や集会に参加し、グループホームや認知症について知って貰えるようにしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方から認知症に関しての相談を受けた時があり、グループホームでの役割等をお話しした事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設からの入居者数推移や取り組み、事故報告などを実施することで、出席者からさまざまな意見がでる。取り入れられるのものは取り入れることでサービスの向上に活かしている。	利用者の状況や事業所の活動報告・研修内容を話し、意見や提案が出され双方向の活発な話し合いが行われている。病院関係者からは感染症予防対策、薬品会社の方からは医薬品情報を話して貰い、ケアに役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月空床情報を提出している。また、重大事故発生時などには迅速な報告を心がけている。また、人員体制などで不明な点があれば市の担当者に相談をしている。	職員は、市の介護相談員が定期的に訪問してくれ、利用者の思いを把握したことを共有し、ケアに繋げている。研修会でケアについての事例発表の依頼を受けたり、研修の情報を知らせて貰ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的なケアの中で身体拘束を考えなくてはならないような入居者のBPSDは発生していない。開設前の事前研修で身体拘束には少し触れたが、再度内部研修会開催し、身体拘束についての理解を深める予定である。	身体拘束はしないケアを基本にしている。ひとり歩きする方には、職員が付き添い見守り、行動を制限しないようにしている。職員は、ことば使いを丁寧に、話しかける事を意識し、ことばの拘束をしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日常的なケアの中で虐待につながるような入居者のBPSDは発生していない。開設前の事前研修で高齢者虐待には少し触れたが、再度内部研修会開催し、高齢者虐待についての理解を深める予定である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	名前程度は知っているかもしれないが、詳しい内容についての理解は乏しい。また、その理解のための内部研修会の開催もしていないため今後開催し理解を深められる機会を提供していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、出来る限り時間をかけ説明している。特に退居及び契約解除の要件については念入りに説明をうい、理解していただけいるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そのような機会を設けたことはない。日常的に入居者や家族からの要望を受け入れる雰囲気がつくれるよう努めており、率直な意見を頂戴している。	家族の面会時は利用者の生活状況を話して、意見や要望を貰うようにしている。入居して間もない利用者の生活習慣について、家族から相談を受け職員間で話し合い取り組み、快適に暮らせるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでの全体会議にてケアスタッフからも率直な意見を頂戴している。また、日常的にも気づいた点があれば提案していただいている。	利用者の思いを実現できるよう、職員から出された意見や提案を積極的に取り入れるようにしている。天気に合わせてドライブしたり、図書館に出かけたり外出する機会を増やすなど、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだ不十分な点は多いが、ケアスタッフがやりがいをもち業務にあたれるよう職場環境を整備しているつもりである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修の開催はスタッフ掲示板に掲示し知れせ、自発的に参加していただく場合や指名にて参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム協議会いわき支部の交流会などに参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアチームは本人が安心できるような声掛けをするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が話す機会が多いが、ケアチームでも関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安易な入居相談には応じないようにしている。本人・家族の希望があきらかに異なる場合には他サービスの利用をすすめたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアチームはそのように考えケアを提供していると考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	安易に訪問診療や往診を利用するのではなく、家族の力もお借りして可能な限り通院を続けるなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば主治医は在宅の時と同じ医師でお願いしている。代理人の許可があれば親類・知人などの面会も自由に実施していただいている。ホームスタッフと一緒に馴染みの場所まで出向くことはまだない。	利用者のなじみの関係が継続できるよう、家族の協力を得て支援するようにしている。会いたい希望に応じて知り合いの家に行ったり、思い出した方に年賀はがきを一緒に書くなど、これまでの関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状から、他者とのかかわりが困難な入居者も存在するが、ケアスタッフが中心となり大きなトラブルとならないよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除し自宅へ戻った入居者がいたが、契約解除後も書類物の郵送など必要な部分はしっかりと実施した。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活を前面に出すことなく、可能な限り個人の考えや思いを尊重してケアを提供している。	家族の協力を得て、これまでの生活を知り話しかけ、思いを把握するようにしている。思いを伝えにくい方には、その人と目線を同じくし寄り添い話をするようにしている。把握した思いは、職員間で共有しケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り入居前の生活を把握するようにしている。ただし簡単ではなく、入居後も継続して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチームからの情報提供やケア記録などにより状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り現状に即したケアプラン作成が可能なよう、努力している。	本人・家族の希望を取り入れながら、そのひとにあった個別の具体的な介護計画を作成している。状態変化に応じて、医療機関等の意見を参考に見直しをし、家族に伝え理解して貰い、計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に各入居者の記録を細かく入力するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまなニーズに柔軟に対応できるよう工夫している。外部の専門家へ相談するなど自事業所での解決にこだわらないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の把握まではたどり着いていないのが現状である。入居者の生活環境整備のためにも社会資源の把握に力をいれていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族の希望を第一にしている。可能な限り適切な医療を提供しようと努力している。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。受診は家族同行を基本にしているが、職員が代行することもある。受診時には利用者の生活状況等を記入した受診お便りを持ち、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の医療連携時に看護師に確認したい事項の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には迅速に情報提供を文書で行うよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学時や入居契約時に今のホームの体制で可能なこと・不可能な事を説明しているが、その後終末期の話をする機会の設定などの取り組みは実施していない。今後取り組んでいきたいと考えている。	心身の状態の変化に応じて、医師と連携し家族に説明して貰い、希望に添えるようにしている。職員は研修会や医師・訪問看護師の話を聞き学んで、不安が解消でき安心してケアに取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応方法は、実践形式での内部研修会にて学ぶ機会を設けた。今後も定期的に実施していきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をとおして日中・夜間の避難訓練は実戦練習を行った。今後は地震時の対応方法など周知・訓練していきたい。	消防署の協力を経て、円滑な避難誘導が出来るようにしている。職員は真摯に取り組み、短時間で避難が出来ていると、消防署から好評を貰っている。避難訓練を運営推進会議に日程を合わせ、参加して貰えるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語での対応が出来てはいる。	利用者のこれまでの生活歴を大切に、その人に合った呼び方をし、話を聞き受け入れ否定しないようにしている。利用者同士でプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入り話や場所を変えるなどして対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な選択をする機会を提供したりすることに努めている（例：飲み物の種類など）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側の都合は前面にせず、あくまで入居者の希望や意向に沿ったケアを提供するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みもあり、比較的お気に入りの洋服になりがちであるが、それも入居者の好みの為大切にしてケアを提供している。ケアしやすいという理由で衣類を選択することはしていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は献立から買い物、調理、片付けを入居者とともに実施している。	利用者の希望するメニューを作成している。山菜を頂いたり、事業所の畑で収穫した野菜等を取り入れ季節を味わって貰えるようにしている。その人の体調を考え、調理方法を変えたり食べやすいようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は比較的多めに飲用をしていただいている。食べる量に関しては、「全量食べたから良い」という考え方はせず、ひとりひとりの意向に合わせた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自力で実施していただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用しないようケアをしているが、衣類の汚染が増えた場合はやむを得ずオムツの使用をしている。それでもトイレの声掛けを実施したりと工夫してケアを提供している。	自分の意思で、トイレ排泄ができる様に支援している。職員は排泄時間・表情や動きを見守り記録し、入居時オムツだった方がリハビリパンツになるなど、家族に感謝されている。羞恥心やプライバシーを考え、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール不良にて、ほぼすべての入居者が下剤内服中である。個々に応じた取り組みを検討していきたいと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を取り入れている。入浴を好まない方でも週2回は入浴をしていただけるよう工夫している（例：他入居者やスタッフと一緒に入浴していただく等）	その人の希望する時間や順番を受け入れ、入浴できるようにしている。ゆず湯や入浴剤を活用し、楽しんでもらえるようにしている。体調に合わせて足浴や清拭をし、清潔に過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律に午睡の時間などは設けていない。夜間の睡眠に影響がない程度に自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は概ね理解できていると感じるが、副作用までと言われると疑問が残る、薬手帳の写しをケアスタッフが閲覧可能な場所へ保管しておくなど環境の工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯もの干し・たたみなど馴染みやすい動作を実施していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外に毎日散歩する入居者もいる。希望の人には可能な限りスタッフが付き添って屋外へでている。希望の場所までは行けていない。今後検討していきたい。	利用者のその日の希望に応じて、個別にドライブに出かけたりしている。行事で出かけるときは、職員が起案・準備・下見などし、安心・安全に外出できるようにしている。利用者の誕生月には好みのものを食べに、外食している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であり、紛失の危険性を代理人や身元引受人に理解していただけた場合は本人に管理していただく。多くは事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	すべての入居者に電話を貸すことはできないが、親類や友人から事業所の代表電話に電話があった場合は、話をしていただいている。また、郵便物は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気をだせるよう配慮している。入居者同士でテレビの音量などで意見が食い違うことも多いがスタッフ介入して対応している。	職員のアイディアで、大きな文字のカレンダーが貼られ、利用者が生活のリズムを感じられるようにしている。物を置かないようにし、利用者が安全に歩行できる環境作りをしている。天窓を開け換気したり、温度調整し感染症予防をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホールの和室部分で少人数の関係性が保たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	持参物に火器類以外の制限は設けていない。ベッド使用を強制することもしていないため敷布団で生活している方も多くいらっしゃる。	本人馴染みの物を自由に持ち込んで貰い、その人らしい居室になるよう支援している。自分の部屋がわかるように、名札を貼ったり目線の高さに合わせた目印を入り口に付けている。職員は、出来る方と一緒に掃除し、整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰ケアにならによう配慮しながらケアを提供するよう心がけている。		